

自動車ができるまで

自動車ができるまで

自動車は、たくさんの部品を組み合わせで作られています。工場では、どのような順番で作られているのでしょうか。

まず、大きな鉄の板を、プレス機で打ちぬいたり曲げたりして、ドアや屋根などの形にします。次に、それらの部品を、ロボットがつなぎ合わせて、車体の形にしていきます。これを、溶接ようせつといいます。

車体ができると、さびを防ぐための下ぬりをしてから、ロボットがいろいろな角度から色をぬっていきます。

その後、ラインとよばれる、ゆっくり動く台の上に車体をのせ、たくさんの人が、決められた部品を順番に取りつけていきます。エンジンやシート、タイヤなども、ここで取りつけられます。

最後に、ブレーキやライトがきちんと動くか、水もれがないかなど、たくさんの項目こうもくをきびしく検査して、合格した自動車だけが、工場から送り出されるのです。

今では、工場で働く人の安全を守ったり、作業をしやすくしたりするために、ロボットが重い部品の取りつけなどを手伝っています。

1

自動車ができる順に、□に1・2・3を書きましょう。

色をぬる。

部品をつなぎ合わせて、車体にする。

部品を取りつける。

2

部品をつなぎ合わせて、車体の形にすることを何といいますか。

3

色をぬる前に、下ぬりをするのはどうしてですか。

4

最後の検査で、工場から送り出されるのは、どんな自動車ですか。

ア すべての自動車

イ 合格した自動車だけ

ウ 色のきれいな自動車だけ